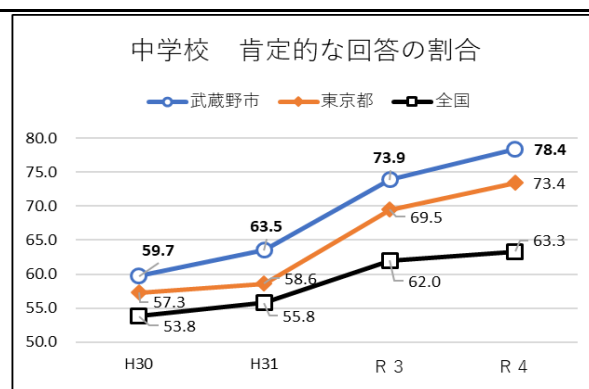
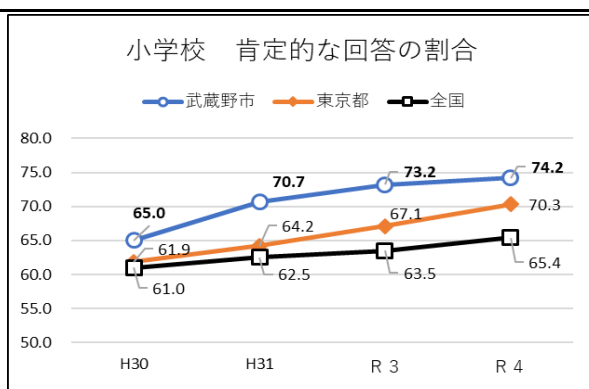


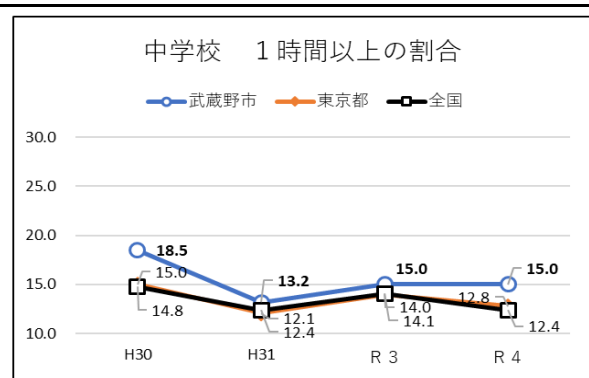
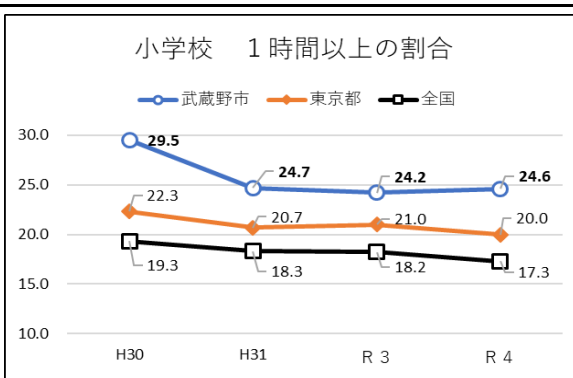
1 施策	①言語能力の育成	
2 主要な取組	A 言語活動の充実	
	B 英語教育の推進	
3 施策全体の総括	国語科を要に各教科等で話し合いや発表での指導の工夫等の言語活動の充実を図った。今後、学校図書館の機能を充実するために学校司書による各機関との連携や先進的な地域の視察を行っていく必要がある。英語教育では、コミュニケーションを図ることができる基礎的な力の育成を目指し、小学校英語教育推進アドバイザーによる授業支援を通して、授業改善を推進した。今後、日頃から英語と触れ合う環境整備の充実について研究していく必要がある。	

4 これまでの取組に関する実績値の例（全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙より）（単位＝％）

A-① 5年生（中学1、2年）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



A-② 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



5 これまでの取組と考察

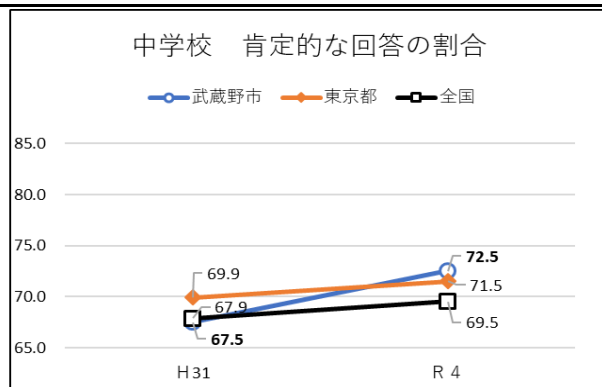
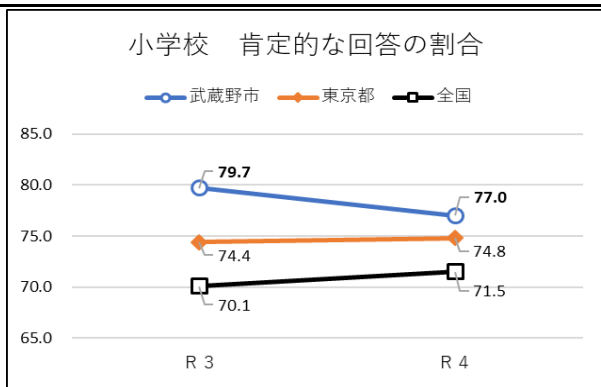
A 言語活動の充実
 ○校内研究の取組として自分の思いや考えを深める指導についての研究を行ったり、国語科等の授業において論理的に考え話し合う場面を計画的に設定したりするなど、各校が言語活動の充実を推進した。その結果、自分の考えを発表する学習に対する肯定的な回答の割合が小・中学校共に向上しており、言語活動等への意識の高まりがみられる。
 ○一方で読書に関する項目は、小・中学校共に全国や東京都よりは高いものの、経年で比較するとやや低下傾向がみられる。学校司書の配置時間の拡充など、学校図書館の読書センター機能の強化に取り組んでいるが、今後も多様な種類の本との出会いや読書に親しむ機会の確保などの取組の推進が求められる。

B 英語教育の推進
 ○小学校英語教育推進アドバイザーによる巡回指導を通して、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度等の育成に向けた授業改善を推進してきた。また、小・中学校の教員が互いに授業を見合い、協議する場を各校で設定するなどして、小・中学校が連携して英語教育の充実を図ってきた。
 ○小学校では学級担任のみならず、英語を専門とした都・市講師が外国語活動等の授業を担う事例が増えている。令和5年度より教員及び市・都講師が一堂に会して、授業力向上に向けた研修会を新設しているが、授業力のさらなる向上の取組を工夫する必要がある。

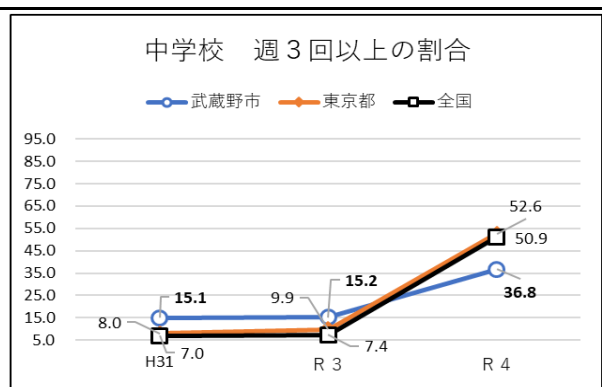
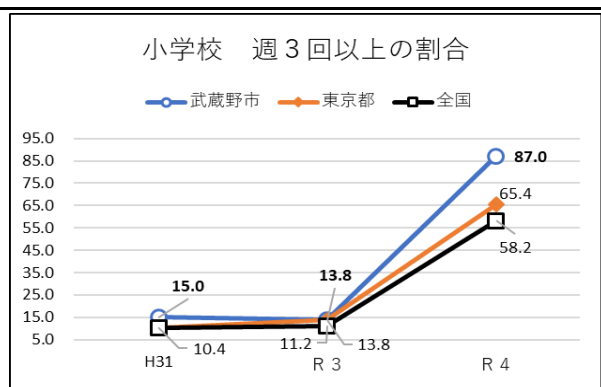
1 施策	②情報活用能力の育成	
2 主要な取組	A 学校図書館の活用	C 情報通信技術を活用した授業の推進
	B 情報モラル教育の推進	D 論理的思考・プログラミング的思考の育成
3 施策全体の総括	令和3年度より「学習者用コンピュータ活用事業」を3年間の試行で始めた。一人1台の学習者用PCを貸与し、各校でICT機器を活用した学習を推進した。また情報モラル教育からデジタル・シティズンシップ教育への移行、理科や算数等を通じての論理的・創造的思考の育成も推進した。「学習センター、情報センター」としての学校図書館の機能を充実させるため、学校司書の勤務時間を拡充し、子どもが学校図書館を活用しやすい環境整備を進めた。	

4 これまでの取組に関する実績値の例（全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙より）（単位＝％）

B-① 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っています



C-① 5年生（中学1、2年生）までに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか ※令和3年以前は「〇年生までに受けた授業で、コンピュータなどのI C T機器をどの程度使用しましたか」



5 これまでの取組と考察

A 学校図書館の活用
 ○令和5年度より学校図書館サポーターを学校司書に改め、勤務時間を拡充した。その結果、放課後の学校図書館開放、中央図書館及び市内他校との連携の充実などに向け、計画の立案・実施を進めている。

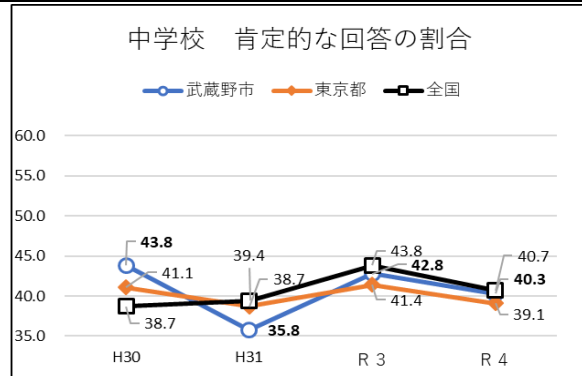
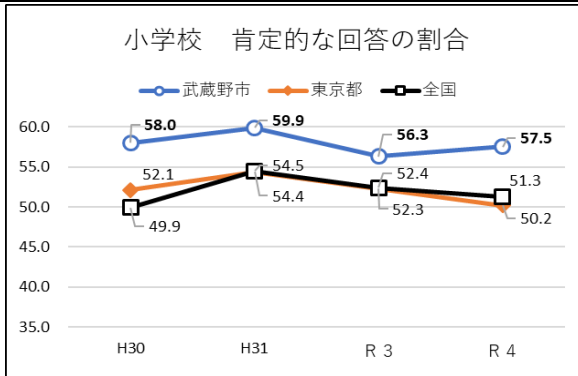
B 情報モラル教育の推進
 ○「家の人と約束したことを守っているか」について、小・中学校ともに70%以上の児童・生徒が肯定的な回答をしている。多くの児童・生徒は適切に利用しようとする意識が高いことが伺える。各校は道徳科やセーフティ教室等を通じてネット被害や、SNSトラブル等を題材に取り上げ、情報社会における正しい判断や望ましい態度について考える授業を行っている。令和3年度からはデジタル・シティズンシップ教育を通じて、情報モラルやよりよい使い方について児童・生徒が考える機会を重視した取組を進めている。

C 情報通信技術を活用した授業の推進
 ○令和5年度は「算数・数学」「外国語（英語）」の2教科でデジタル教科書を使用している。「算数・数学」は市内10校の小学校と全中学校で「外国語（英語）」は市内全小中学校で使用している。
 ○小学校におけるICT機器の活用について87%の児童が「週3回以上」と回答し、活用が進んでいる。一方、中学校で「週3回以上」と回答した生徒が36.8%と全国や東京都の平均を下回っており、授業での効果的な活用を推進することが課題となっている。

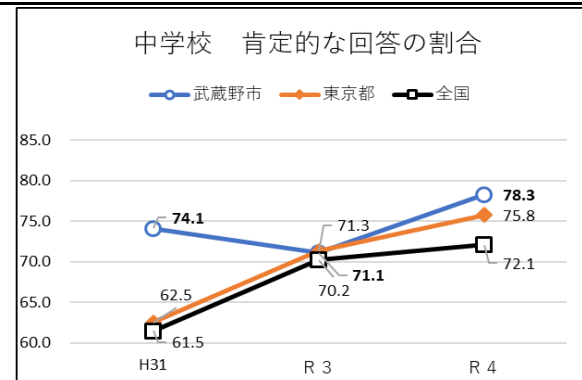
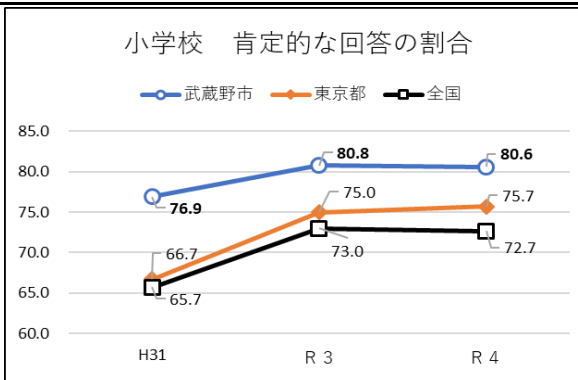
D 論理的思考・プログラミング的思考の育成
 ○令和5年度は、市内3つの小学校で外部講師を招いてプログラミング教育が実施された。

1 施策	③市民性に関わる資質・能力の育成	
2 主要な取組	A 武蔵野市民科の実施	C 長期宿泊体験活動の実施
	B キャリア教育の充実	
3 施策全体の総括	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止や縮小した年度もあるが、持続可能な社会の創り手の育成を目指し、武蔵野市民科では小学校5年生以上で総合的な学習の時間を中心に探究的な学習を、キャリア教育では各学年でキャリアパスポートを使って自身の変容や成長等を自己評価する取組などを、長期宿泊体験活動では直接体験や現地の方との交流を進めた。これらを総合的に推進する中で、市民性に関わる資質・能力の育成を推進した。	
4	これまでの取組に関する実績値の例（全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙より）（単位＝％）	

A-① 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



A-② 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



5 これまでの取組と考察

A 武蔵野市民科の実施

○総合的な学習の時間を中心に教科等を組み合わせ、「地域の商店等のよさを調べてタウン誌で発信」「市長への提言」など、特色ある実践を各校で推進した。その結果、自分で課題を立てて解決する学習（探究的な学習）に対する肯定的な回答の割合が小・中学校共に向上しており、課題発見や課題解決に向けた意識の高まりがみられる。

○一方で、社会参画に関する項目は、小学校は全国や東京都より高いものの60%には届いておらず、中学校も50%以下と全国等と大差はない。社会参画を意図した取組の一層の推進が求められる。

B キャリア教育の充実

○中学校2年生が行う職場体験について、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかったが、代替の取組として職業人の話を聞くなど各校で工夫して取り組んだ。令和3年度以降は地域コーディネーターと連携し、体験先を確保・拡大した。また、体験だけでなく「訪問企業が地域や社会貢献をどう行っているか」など武蔵野市民科と連動した取組も行われるようになった。

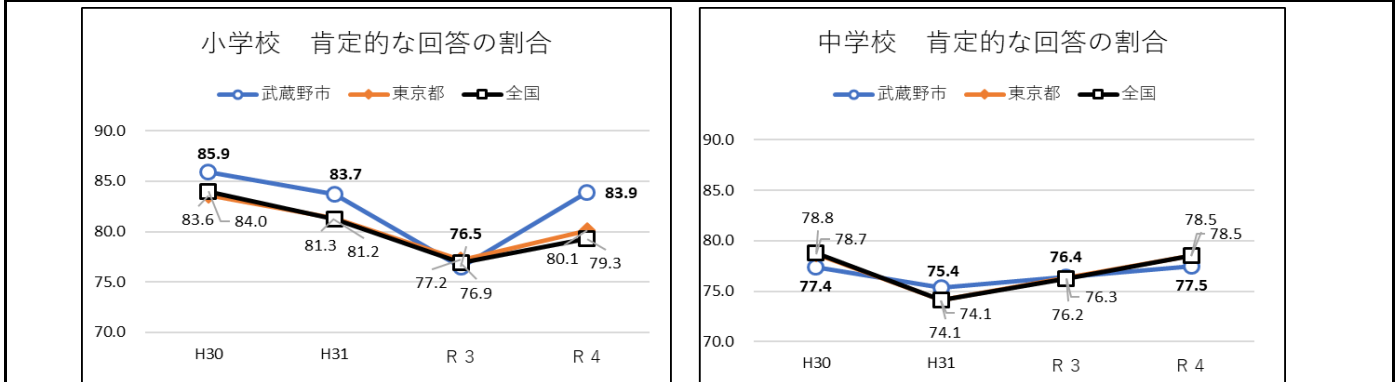
C 長期宿泊体験活動の実施

○長期宿泊体験活動検討委員会を実施し、体験活動を通して育成を目指す資質・能力や活動内容の整理、実施日数の見直し等を行い、報告書を作成した。新型コロナウイルス感染症拡大のため、本報告書の内容を基にした取組は令和4年度から始めたところである。

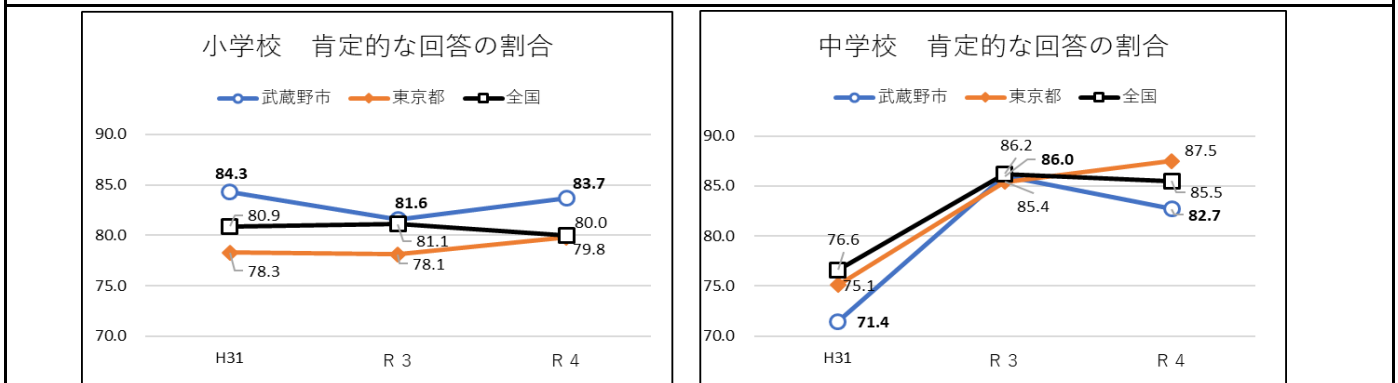
○報告書に基づき、各校では長期宿泊体験活動にて、自然体験、よりよい人間関係の形成を育む活動、当該学年にふさわしい特色ある活動を推進しており、今後児童・生徒への事前事後アンケート結果等を集約し、本報告書の取組の効果検証を行う必要がある。

1 施策	④多様な人々が共に生きる社会の担い手としての資質・能力の育成	
2 主要な取組	A 人権教育の推進	C 交流及び共同学習の推進
	B 道徳教育の推進	
3 施策全体の総括	教育活動全体を通して、意図的・計画的に人権教育を推進した。特にオリンピック・パラリンピック教育との関連で、国際理解や障害者理解について、各校の実態に応じて取り組んだ。また、通常の学級と特別支援学級等の交流や共同学習をする中で、多様な人々の中で共に生きる社会についての理解を進めた。道徳教育では、道徳科の実施にあたって「考える道徳、議論する道徳」への授業改善を行い、共に生きる社会の担い手としての資質・能力を育成した。	
4	これまでの取組に関する実績値の例（全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙より）（単位＝％）	

A-① 自分には、よいところがあると思いますか



B-① 道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいます



5 これまでの取組と考察

A 人権教育の推進

○令和2・3年度に第一中学校が東京都人権尊重教育推進校として自尊感情測定尺度（東京都版）等を使った自尊感情を高める教育活動の工夫に取り組んだ。この取組を生かし、令和5年度より全校で本尺度による実態把握と教育活動の改善に取り組み始めた。

○武蔵野市こどもの権利条例が令和5年4月施行され、条例に示された「子どもにとって大切な子どもの権利」等を学ぶ機会や、子どもの意見表明や参加の実現を目指していく必要がある。

B 道徳教育の推進

○授業研究を中心に道徳教育推進教師連絡会を年1回実施し、発問の工夫等を協議した。その結果「道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の問いについて、小学校は全国や東京都より高く、中学校は直近では全国や東京都より低くなったものの、以前よりも肯定的な回答の割合が高まった。

○道徳授業地区公開講座を全校で年1回開催し、保護者や地域に開かれた道徳教育を推進している。

C 交流及び共同学習の推進について

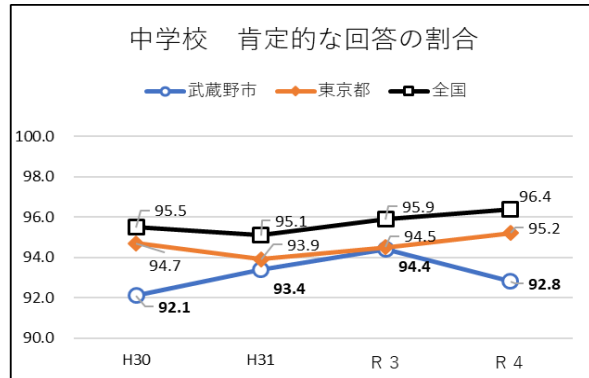
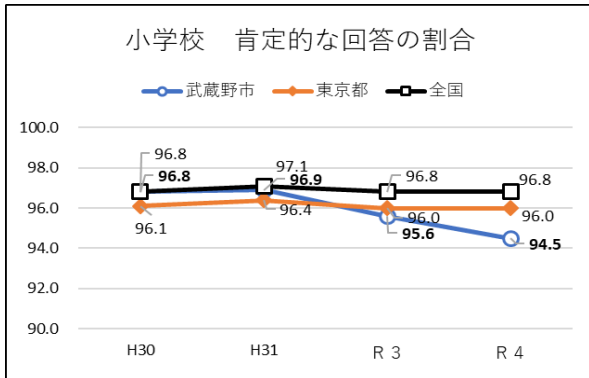
○令和2年度に小学校知的特別支援学級に、令和3年度に中学校知的特別支援学級に交流共同学習支援員を配置した。その結果、小学校では学校行事等での交流だけでなく教科における交流及び共同学習が実施され、中学校では委員会や部活動などにおける交流を行い、児童・生徒の交流及び共同学習の機会の推進を図った。

○令和3年度に合理的配慮に関する理解促進のため、教員向けリーフレットを作成し全教員に配布した。また、特別支援教育に関する情報発信として、市ホームページに特別支援学級、特別支援教室、通級指導学級の紹介動画を掲載した。

1 施策	⑤一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実①	
2 主要な取組	A いじめの防止に向けた取組	C 特別支援学級（固定学級）の今後のあり方検討
	B 特別支援教室（通級）の体制整備	D 交流及び共同学習の推進（再掲）
3 施策全体の総括	<p>市教育委員会及び学校はいじめ防止基本方針を策定し、いじめ問題を適切に対処し、児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるように取り組んだ。また、思いやりや規範意識等を育てる人権教育や道徳教育の充実等、いじめ防止に向けて取り組んだ。</p> <p>全小・中学校に特別支援教室を導入し、対象児童・生徒は在籍校において指導を受けることができるようになった。特別支援学級については、都立特別支援学校のセンター的機能を活用し、教員の専門性向上を図った。中学校知的特別支援学級の生徒の増加により、市立第五中学校の学校改築に伴い知的特別支援学級を1校増設に向けて準備を行った。</p>	

4 これまでの取組に関する実績値の例（全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙より）（単位＝％）

A-① いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



A-② 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか（令和4年度のみ）

	武蔵野市	東京都	全国
小学校	64.9%	68.5%	68.1%
中学校	57.3%	65.5%	66.6%

肯定的な回答の割合

5 これまでの取組と考察

A いじめの防止に向けた取組

○武蔵野市いじめ防止基本方針を具現化するための具体的方策を令和4年2月に策定した。また武蔵野市子どもの権利条例（令和5年4月施行）にて、いじめ問題対策委員会など、関係機関と連携したいじめ防止の取組についても位置付けを明確にした。

○各校では年3回いじめに関するアンケートを実施し、いじめの早期発見、迅速な対応を行った。また武蔵野市いじめ防止基本方針ポスターを令和4年4月に改訂し、学級や児童会・生徒会活動でいじめ問題について考える機会を設けた。教員に対しても、人権尊重やいじめに関する研修や生活指導主任会で各校の取組を共有する等、いじめ防止に向けた取組を行った。

○しかし、全国学力学習状況調査の質問紙調査の結果では、小・中学校ともに「いじめはいけないことだ」と答えている児童・生徒の割合は微減しているほか、先生等にいつでも相談できるの回答割合が全国や東京都より低いうえに、6割程度に留まっている。ネットいじめへの対応も喫緊の課題であり、教育相談のあり方を含めた今後のいじめの防止に向けた取組を検討する必要がある。

B 特別支援教室（通級）の体制整備

○令和2年度に全小・中学校に特別支援教室を導入し、対象児童・生徒は在籍校において指導を受けることができるようになった。特別支援教室の教員が児童・生徒の在籍校に巡回することで在籍学級での授業観察も可能になったため、在籍学級の教員等との連携が図られた。また個別指導計画の連携型を導入し、特別支援教室の指導目標、評価を在籍学級とともに行った。

○これまで3校だった小学校特別支援教室の拠点校を令和2年度に4校に増設し、巡回指導教員と在籍校との連携の強化した。

C 特別支援学級（固定学級）の今後のあり方検討

○知的障害特別支援学級では都立特別支援学校のセンター的機能を活用し、教員の専門性向上を図った。中学校知的特別支援学級の生徒の増加により、市立第五中学校の学校改築に伴い知的特別支援学級を1校増設に向けて準備を行った。

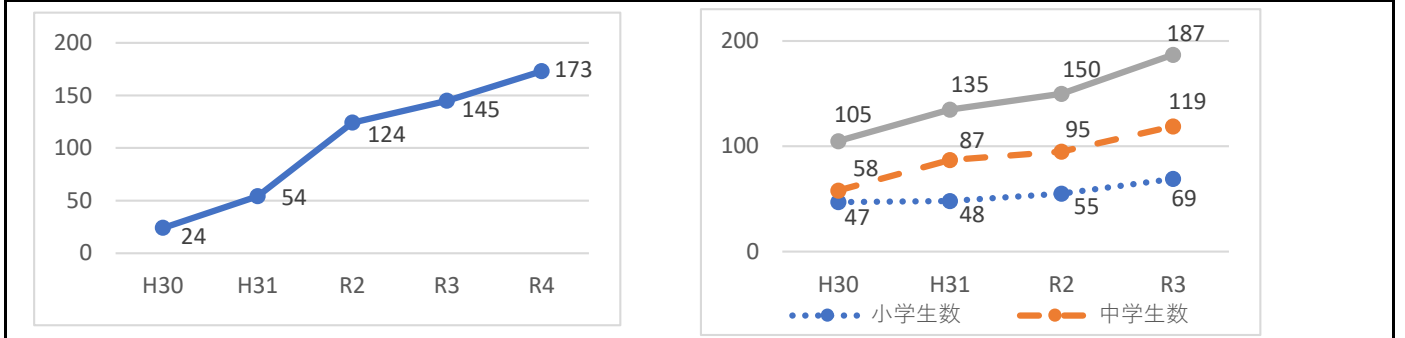
○知的障害特別支援学級では療育機関等の関係機関と連携し、肢体不自由特別支援学級では医療・福祉の専門家と連携しながら、専門的な指導の充実を図った。

○病弱学級は、武蔵野赤十字病院と連携しながらICT機器も活用し、学習の充実を図った。

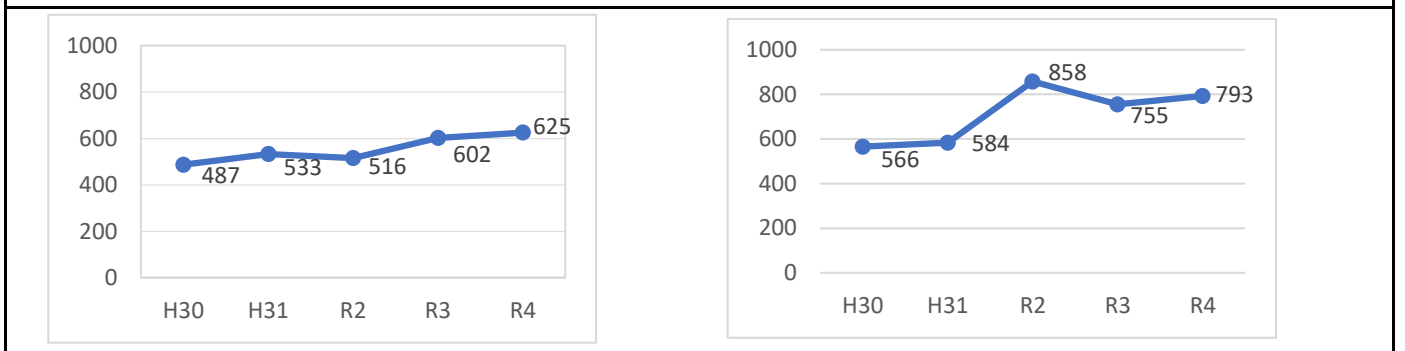
1 施策	⑤一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実②	
2 主要な取組	E スクールソーシャルワーカーと家庭と子どもの支援員の配置拡充	G 切れ目のない相談支援体制づくり
	F 不登校児童・生徒の多様な学びの場のあり方の検討と確保	H 帰国・外国人教育相談室による支援の充実
3 施策全体の総括	不登校や発達障害、家庭の問題など様々な要因で支援が必要な児童・生徒が増えている。SSWや教育相談員が児童・生徒と保護者に対して相談支援を行い、関係機関と連携して学習支援や居場所支援など教育的ニーズに応じた支援につなげる必要がある。特に不登校対策としては、学校とSSWやSC等が連携して校内支援体制を拡充するとともに、不登校の児童・生徒が自分で学校以外の居場所・学習方法を選択できるような多様な学びの場の整備が求められている。	

4 これまでの取組に関する実績値の例 E-①,G-①②(武蔵野市の教育相談業務報告より)(単位=件)
F-①(武蔵野市教育委員会が実施する「令和3年度問題行動・不登校調査」より)(単位=件数)

E-① スクールソーシャルワーカーの対応案件の推移 F-① 市内の不登校児童生徒数の推移



G-① 教育支援センターでの相談件数の推移 G-② 教育支援センターの関係機関等との連携件数



5 これまでの取組と考察

E スクールソーシャルワーカーと家庭と子どもの支援員の配置拡充
 ○令和2年度にスクールソーシャルワーカーを6名に増員して全中学校区に配置した。市立小中学校へ定期訪問し、学校との情報共有を密に行うことで学校からの依頼件数が増加した。学校や関係機関と連携して不登校の早期対応や養育困難家庭への支援を進めている。
 ○令和3年度に家庭と子どもの支援員を全ての市立小中学校に配置した。令和4年度は、別室支援等の校内支援を継続的・安定的に行うため家庭と子どもの支援員(常駐型)を3校に配置した。令和5年度以降も配置校を増やして校内支援体制を強化する。
 ○不登校児童生徒の保護者支援のために、講演会や保護者同士の意見交換会を年に1回開催している。不登校児童生徒数は増加傾向にあるため、事業の開催回数を増やすなどして保護者支援を拡充する必要がある。

F 不登校児童・生徒の多様な学びの場のあり方の検討と確保
 ○令和2年度に中学生対象の教育支援センター(適応指導教室)「むさしのクレスコーレ」を開設した。自由度の高いクレスコーレの活動を希望者約20名が利用している。不登校児童・生徒数の増加や通所に時間のかかる地域、小学生低学年児童への対応などの課題に対応するために、更に教育支援センターの増設について検討する必要がある。チャレンジルームやクレスコーレの利用を希望しない児童・生徒に対する多様な学びの場として、ICTの活用やフリースクールとの連携、特例校の設置の研究が求められている。

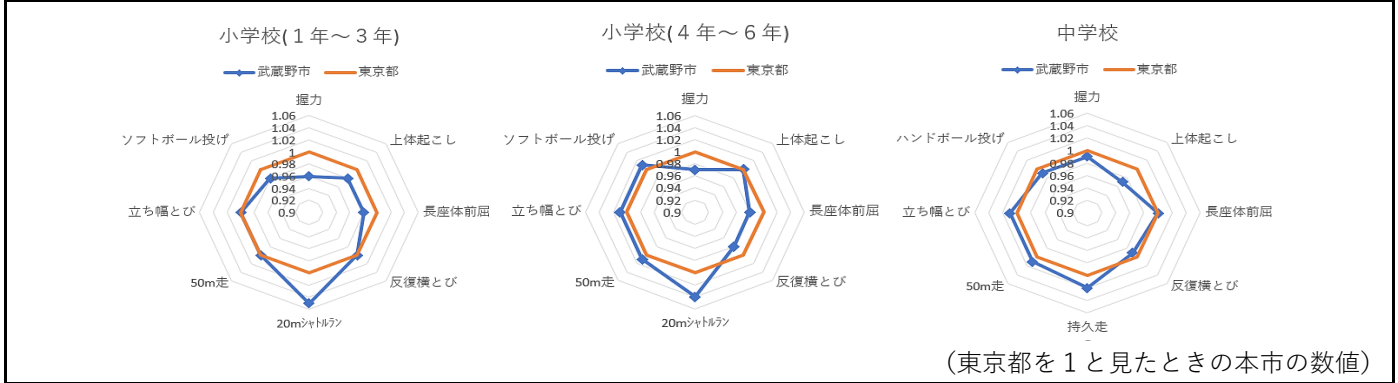
G 切れ目のない相談支援体制づくり
 ○令和10年度に予定されている子ども子育て複合施設への移転に向けて、子ども家庭支援センター、児童発達支援センターとともに、子どもと子育て家庭に切れ目のない包括的な支援体制づくりを進める。

H 帰国・外国人教育相談室による支援の充実
 ○市立小中学校に在籍する日本語を母語とせずに学校生活において指導支援を必要とする児童・生徒に対して帰国・外国人教育相談室では、学校と連携して言語支援や相談支援、学習支援を行っている。高学年の児童・生徒は日本語指導等の支援を受けても、学校の授業を理解するのが難しい状況にあり、更なる支援の充実が求められる。

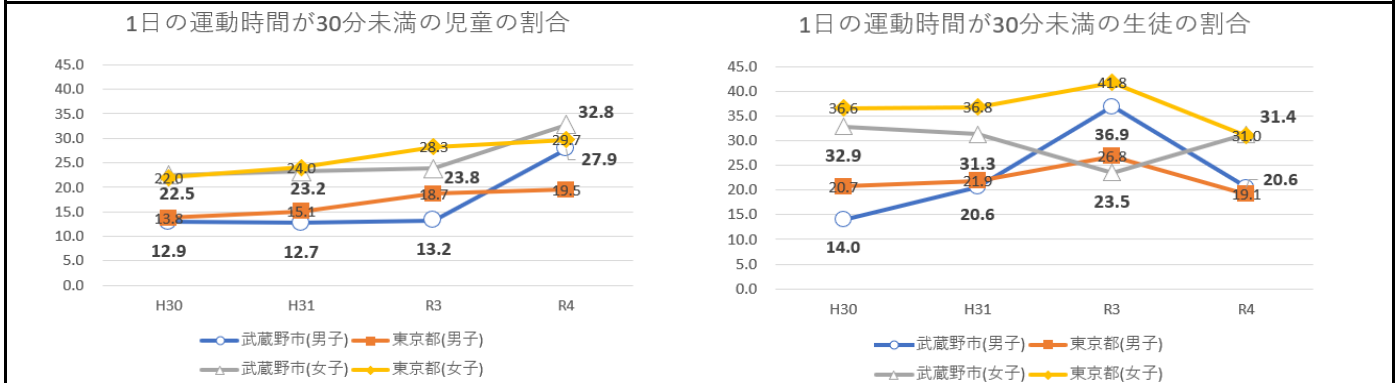
1 施策	⑥健康で安全な生活の実現	
2 主要な取組	A 安全・安心な学校づくり	C 食育の推進
	B 運動習慣の定着や体力の向上、健康教育の取組	
3 施策全体の総括	<p>児童・生徒が安心、安全な学校生活を過ごすことができるよう、通学路や学校に防犯カメラや電子錠を設置するなど環境整備を進めるとともに、避難訓練や安全指導、セーフティ教室等を意図的、計画的に実施した。</p> <p>体力に関しては、オリンピック・パラリンピック教育と連動し、アスリート招聘など運動に親しむ取組や、体力向上及び健康の保持増進に係る教育活動、家庭への啓発などを各校で進めた。また、食育リーダーを中心に各学校で食育に関する全体計画を作成し、給食・食育振興財団等と連携した取組を推進している。</p>	

4 これまでの取組に関する実績値の例

B-① 令和4年度 体力・運動能力の結果 (令和4年度東京都児童・生徒 体力・運動能力、生活・運動習慣等調査より)



B-② 1日の運動時間が30分未満の児童・生徒の割合 (令和4年度東京都児童・生徒 体力・運動能力、生活・運動習慣等調査より) (単位=%)



5 これまでの取組と考察

A 安全・安心な学校づくり

○月に1度全校で、避難訓練、安全指導を行うとともに、各校でマニュアル（不審者対応、交通安全、アレルギー疾患等）を作成し運用した。特にアレルギーについては、令和5年6月現在、重篤な事故の報告はない。

○通学路の防犯カメラは、市内60か所に設置しており、見守り活動の補完等に活用されている。門扉の電子錠は、既に一部の学校に導入しており、今後は学校改築に伴い、設置を検討していく。

B 運動習慣の定着や体力の向上、健康教育の取組

○全学年で体力調査を実施し、その結果を生かして、児童・生徒の体力向上の取組を進めてきた。学年が上がるにつれ、東京都平均との差が縮まっている。特に教育課程に具体的な目標や取組を記載し、体力向上に係る教育活動を実施した学校では、運動の得意な子が増え、苦手意識をもつ子を減らすことができた。ただし、市内全校で取り組んでいるとは言い難く、市全体として授業改善及びよりよい生活習慣への意識の醸成、運動習慣の定着にむけ、取組の充実を図っていく必要がある。また、1日の運動時間が少ない児童・生徒の割合は都の平均に比べて高く、体育の授業以外に運動に取り組む機会の確保が必要となる。

C 食育の推進

○年1回の食育リーダー研修会にて、食育の全体計画、武蔵野市給食・食育振興財団や各校の取組についての共通理解、食に関する講習を行い、学校における食育を推進してきた。朝食の喫食率は全国や都と比較してやや高い。中学校は給食の時間が短く、教育課程上の食育の位置付けについて工夫する必要がある。

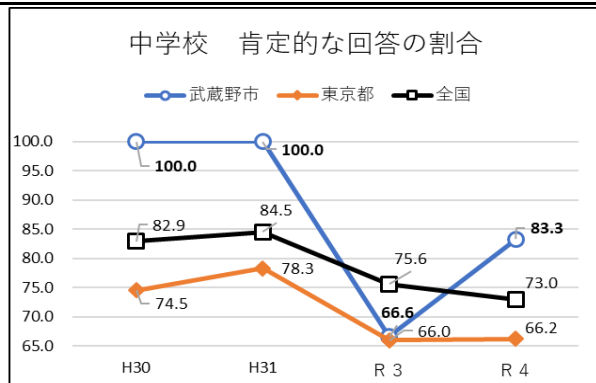
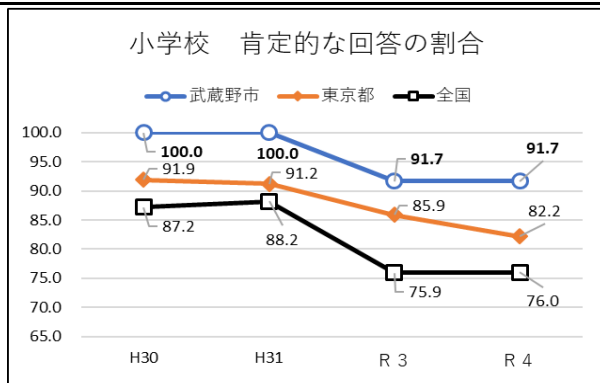
1 施策	⑦学校に好循環を生み出す取組の充実	
2 主要な取組	A 武蔵野市立小・中学校における働き方改革の推進	C 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員研修の実施
	B 持続可能な部活動の実施に向けた取組	D 学校運営の中核となる教員の育成
3 施策全体の総括	学校を取り巻く環境は複雑化・多様化しており、その渦中にある教員の心身の健康・保持増進と校務改善を図り、児童・生徒と向き合う時間を確保するため、先生いきいきプロジェクトに取り組んできた。在校時間の適切な把握と意識改革の推進、教員業務の見直しと業務改善の推進、教員を支える人員体制の確保、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境整備、部活動の負担軽減、教員の主体的な研鑽の奨励といった取組を総合的に進めた。	

4 これまでの取組に関する実績値の例

A-① 平日の1日当たりの平均在校時間の推移（指導課調査より）（単位＝時間）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
小学校	令和4年度	10:46	10:27	10:18	9:17	5:57	10:02	10:08	9:53	8:48	9:14	9:30
	令和3年度	10:55	10:45	10:35	9:29	7:02	10:28	10:15	10:14	9:54	9:22	10:04
	令和2年度	9:25	9:13	10:33	10:45	9:03	10:31	10:30	10:28	10:05	9:15	10:23
	令和元年度	11:00	11:07	10:58	10:22	8:39	10:41	10:51	10:45	10:40	10:38	10:52
中学校	令和4年度	10:55	10:40	10:13	9:30	8:30	10:17	10:26	10:00	9:33	9:41	9:18
	令和3年度	11:03	10:54	10:15	9:55	8:42	9:59	10:29	10:31	10:02	9:43	9:56
	令和2年度	8:43	8:40	10:18	10:26	11:11	10:48	10:30	10:17	10:24	9:28	9:43
	令和元年度	10:42	10:40	10:34	10:22	8:11	10:29	10:30	10:26	10:27	10:14	10:10

C-① 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（R4はオンラインでの参加を含む）（全国学力学習状況調査の学校質問紙より）（単位＝割合）



5 これまでの取組と考察

A 武蔵野市立小・中学校における働き方改革の推進
 ○「先生いきいきプロジェクト（令和4年2月に2.0に改訂）」を策定し、タイムレコーダー導入、市講師や副校長等事務補助臨時的任用職員など教員を支える人員体制の確保、学校徴収金管理システムの導入等を進めた。結果、全体では当面の取組方針「1日当たりの在校時間11時間以内」を達成したが、個人では超過教員もいる。ICT化などによる業務改善をさらに進めていく必要がある。

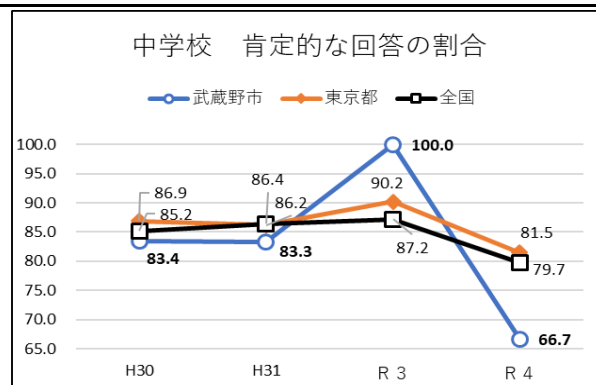
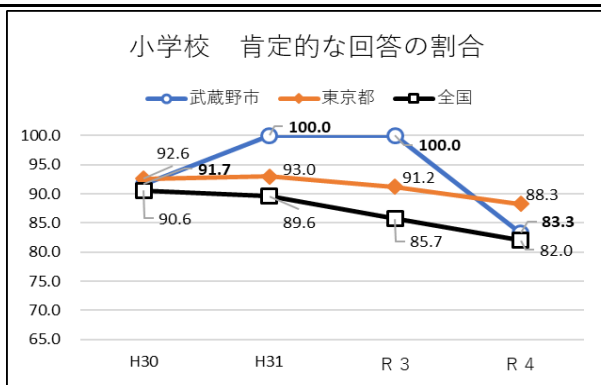
B 持続可能な部活動の実施に向けた取組
 ○教員の働き方改革の観点から部活動指導員を拡充（令和5年度から各校2人）し、部活動在り方検討委員会において地域と連携した合同部活動等の検討を重ねている。また、アンケートにより児童・生徒、教員、保護者にとっての部活動等の意義を確認した。

C 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員研修の実施
 ○若手教員等への教育アドバイザーによる授業観察・支援は毎年150回程度実施した。教育アドバイザーと指導主事が定期的に情報共有することで、一人一人の状況に応じた指導・助言を行った。
 ○指導課主催の夏季教員研修には新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2年度以外、毎年のべ、200人が参加している。令和4年度から民間団体などが主催する研究発表会等に参加する際に発生する参加費補助を開始し、7校から全10件の申請があった。

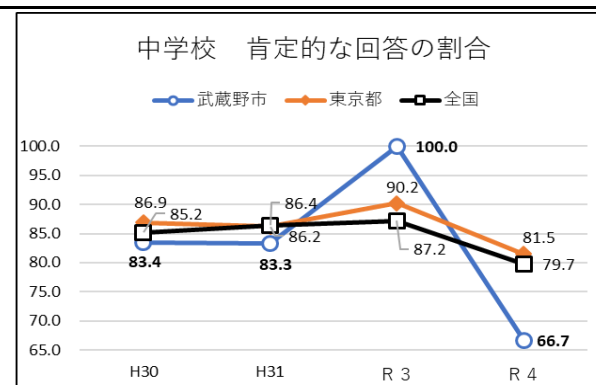
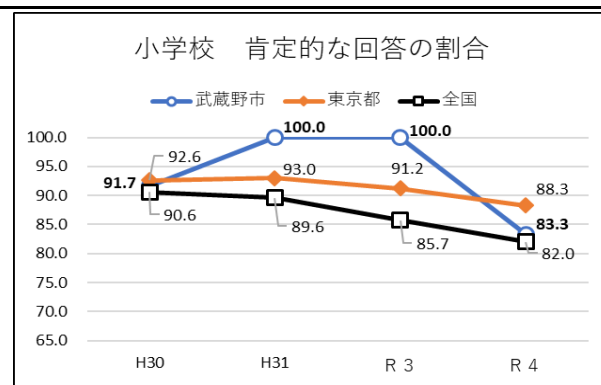
D 学校運営の中核となる教員の育成について
 学校から推薦を受けた、今後学校経営を担うことが期待される教員に対して、学校マネジメント講座を行ってきた。毎年10名近い教員が参加し、現職の校長や副校長等から学校マネジメントや人材育成等を学び、受講生から管理職や主幹教諭を輩出している。

1 施策	⑧学校がプラットフォームとなる地域との協働体制の構築	
2 主要な取組	A 学校・家庭・地域が目標を共有した学校協働体制の構築	C 学校の福祉機能の充実
	B 文化・芸術活動の充実	
3 施策全体の総括	多様で質の高い教育活動を継続的に実施するため、学校協働体制の構築では、モデル校において「開かれた学校づくり協議会」をいかして学校運営の在り方について検討を進めた。文化・芸術活動については、市内の文化関連施設を活用し継続的な実施に努めた。また、市立小・中学校には多様な学校の福祉機能の充実に向けて、スクールソーシャルワーカーを全中学区に配置（再掲）し、相談支援体制を強化するなど取り組んだ。	
4	これまでの取組に関する実績値の例（全国学力学習状況調査の学校質問紙より）（単位＝％）	

A-① 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか



A-② 保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか



5 これまでの取組と考察

A 学校・家庭・地域が目標を共有した学校協働体制の構築

○各校では開かれた学校づくり協議会にて、学校運営に関して地域や関係者等から広く意見を求めてきた。

○令和3・4年度に学校・家庭・地域の協働体制検討委員会にて、学校運営に関する協働体制について検討し、報告書がまとめられた。


本報告を受け、令和5・6年度でモデル校を設置し、開かれた学校づくり協議会の機能充実に取り組んでいる。今後、モデル校の取組を参考に各校で機能強化された開かれた学校づくり協議会の取組を充実していくことが求められる。

B 文化・芸術活動の充実

○新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した年もあるものの、オーケストラ鑑賞教室や演劇鑑賞教室、美術展や書き初め展等の各教科等の特質に応じた活動を実施し、文化・芸術活動の充実を図った。武蔵野文化生涯学習事業団との連携など、生涯学習との連携を今後も検討していく。

C 学校の福祉機能の充実について

○就学援助制度において、令和2年度から5年度（新型コロナウイルス5類に移行するまでの間）において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により認定要件を臨時的に拡大した。また、学習者用コンピュータの家庭での通信費等の負担軽減を図ることを目的として、令和3年度から新たに「オンライン家庭学習支援費」を追加した。引き続き各制度の周知を行うとともに、オンライン申請方法を追加等、利便性向上を図る。

1 施策	⑨未来を見据えた学校の整備	
2 主要な取組	A 学校改築の計画的な推進	D 児童増・災害・老朽化に対応した学校施設の改修
	B 新学校給食桜堤調理場の整備	E ICT化の推進
	C 小学校自校給食調理施設の整備	
3 施策全体の総括	<p>学校改築については、学校施設整備基本計画に基づき、令和2年度から改築事業を進めている。引き続き、社会経済情勢も注視しながら事業を進める。</p> <p>給食施設については、桜堤調理場の建て替えを完了することができた。今後は小学校の改築に合わせて、自校調理施設を整備する。</p> <p>令和3年度より「学習者用コンピュータ活用事業」を3年間の試行で始めた。</p>	
4 これまでの取組に関する実績値の例（全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙より）		
A、B-① 学校改築及び学校給食桜堤調理場整備の進捗状況		
<p>学校改築</p> <p>令和2年度 第一中学校及び第五中学校の基本計画策定</p> <p>令和3年度 第一中学校及び第五中学校の基本設計</p> <p>令和4年度 第一中学校及び第五中学校の実施設設計、第五小学校及び井之頭小学校の基本計画策定</p> <p>学校給食桜堤調理場</p> <p>令和元年度～令和3年度 建設工事</p> <p>令和3年度 2学期から新桜堤調理場が稼働</p>		
E-① 導入した学習者用コンピュータの機種と台数、使用できるサービス等（令和3年度学習者用コンピュータ活用事業のまとめ）		
<p>令和3年4月から各校の児童・生徒へ貸与</p> <p>Chromebook（通常の学級 約8,000台…児童・生徒用、教員用）</p> <p>ipad（特別支援学級等 約300台…児童・生徒用、教員用、教室用）</p> <p>使用できるサービス</p>		
		
5 これまでの取組と考察		
<p>A 学校改築の計画的な推進について</p> <p>○第一中学校及び第五中学校については、令和2年度に基本計画を策定し、令和3年度に基本設計、令和4年度に実施設計を行った。第五小学校及び井之頭小学校については、令和4年度に基本計画を策定した。引き続き、社会経済情勢も注視しながら事業を進める。</p> <p>B 新学校給食桜堤調理場の整備について</p> <p>○桜堤調理場については、令和元年度末から建設工事を行い、令和3年度の2学期から稼働した。児童生徒数の増加に対応して安定的に給食を提供できている。</p> <p>C 小学校自校給食調理施設の整備について</p> <p>○第五小学校及び井之頭小学校の改築において、自校調理施設を整備するため準備を進めている。</p> <p>D 児童増・災害・老朽化に対応した学校施設の改修</p> <p>○児童数の増加に対応するため、各校に必要な改修工事を行うとともに、関前南小学校に増築棟の建設を進めている。</p> <p>○既存学校施設の適切な維持管理のため、各校の給排水管の改修工事、バスケットゴールの耐震改修を進めている。</p> <p>E ICT化の推進</p> <p>○令和3年度より「学習者用コンピュータ活用事業」を3年間の試行で始め、一人1台の学習者用PCの貸与、同時双方向型の利用が円滑に行える水準の通信環境や使用するアプリケーションソフトの整備、教員の研修やサポート体制の整備を行った。通信環境に関する課題は学校から寄せられていないものの、学校での活用が進むにつれ、端末の故障が増加し教育活動に支障が出ることがある。</p>		

武蔵野市の児童生徒の実態（基礎データ① 学力について）

1 全国学力学習状況調査の結果の推移（※令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、中止）

○教科に関する調査（平均正答率 %）

		小学校 第6学年			中学校 第3学年		
		H31	R3	R4	H31	R3	R4
国語	武蔵野市	75 (+10)	75 (+7)	73 (+4)	80 (+6)	73 (+6)	76 (+6)
	東京都	65	68	69	74	67	70
	全国 (公立)	63.8	64.7	65.6	72.8	64.6	69.0
算数	武蔵野市	78 (+8)	81 (+7)	73 (+6)	70 (+8)	68 (+8)	65 (+11)
	東京都	70	74	67	62	60	54
	全国 (公立)	66.6	70.2	63.2	59.8	57.2	51.4
英語	武蔵野市	/			67 (+8)	/	
	東京都				59		
	全国 (公立)				56		
理科	武蔵野市	/		69 (+4)	/		58 (+7)
	東京都			65			51
	全国 (公立)			63.3			49.3

() 内の数値は東京都との差を表す（市教育委員会事務局で追記した数値）

2 令和4年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果（東京都教育委員会実施）

○学びに向かう力等に関する意識 ※東京都と比べて1ポイント以上の差がある項目に△▽を付与

小学校第4学年以上で学習者用PCを用いてウェブシステムを通じて回答

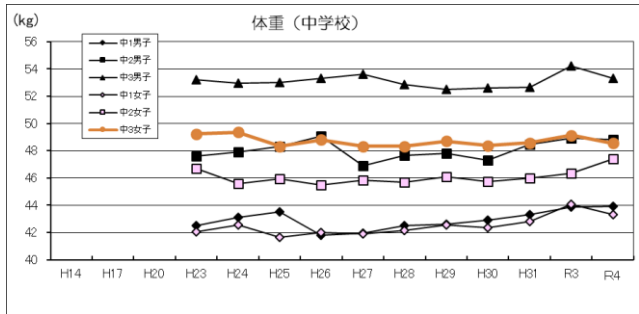
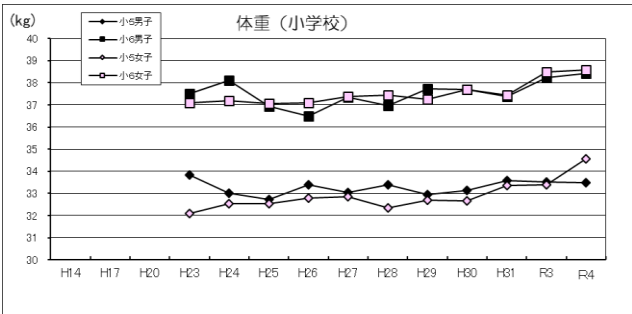
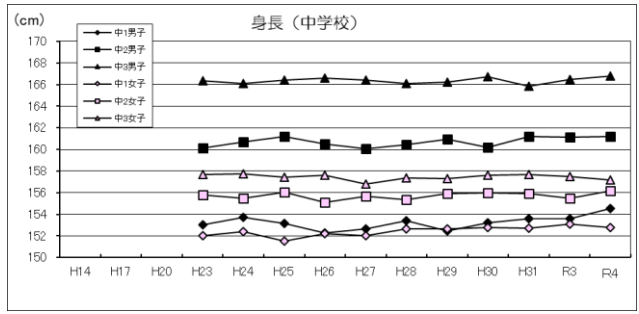
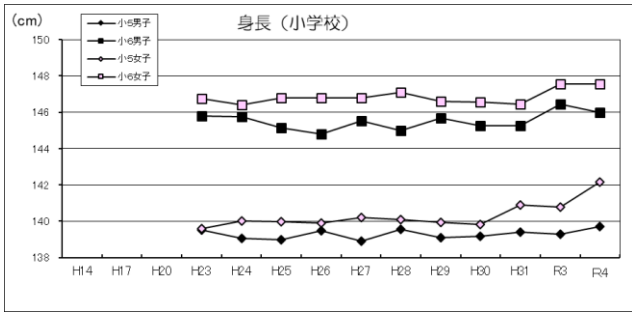
※学びに向かう力…主体的に取り組む態度（粘り強く取り組もうとする意思や、学習を振り返り試行錯誤しながら進めようとする意思）、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考を客観的に捉える力

「粘り強く進める」 ことに関する項目 (単位=%)	(1) 種実ができるようになるまで、 くり返し練習している。				(2) 難しいと感じる問題でも、最後まで あきらめずに取り組んでいる。				(3) 分からないことがあっても、 学習を続けるようにしている。				(4) 集中して学習に取り組んでいる。			
	小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校	
	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都
当てはまる	△ 24.2	22.5	18.0	18.0	△ 46.1	44.4	▽ 24.6	26.5	△ 48.2	44.9	30.8	30.8	▽ 46.4	47.9	▽ 29.0	33.3
どちらかと言えば当てはまる	42.2	42.4	47.3	47.0	36.9	37.3	42.9	42.7	▽ 36.4	38.4	46.3	46.3	40.3	39.5	△ 48.0	46.4
どちらかと言えば当てはまらない	25.6	26.5	26.6	27.3	▽ 12.8	14.2	24.6	24.2	▽ 11.4	12.7	17.0	17.8	10.5	10.0	△ 18.3	16.2
当てはまらない	8.0	8.6	8.1	7.7	4.2	4.1	△ 7.9	6.7	4.0	4.0	5.9	5.1	2.8	2.6	4.7	4.1
「工夫しながら進める」 ことに関する項目 (単位=%)	(5) どうやったらうまくいくかを考えてから 学習を始めようとしている。				(6) 学習の途中で、分からないところやできないと ころはどこかを考えている。				(7) 学習をしてもできるようにならないときは、学 習の方法を工夫している。				(8) テストでまちがえたときは、 なぜまちがえたのかを考えている。			
	小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校	
	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都
当てはまる	29.2	29.0	19.7	20.0	△ 38.8	37.3	▽ 30.9	32.7	△ 32.9	30.1	▽ 21.4	22.9	△ 48.0	44.5	△ 38.5	36.7
どちらかと言えば当てはまる	39.3	40.0	▽ 38.3	39.8	▽ 38.0	39.4	△ 47.5	46.2	▽ 36.1	37.4	△ 41.8	40.4	▽ 31.7	33.5	40.3	40.1
どちらかと言えば当てはまらない	22.6	23.1	30.3	30.0	16.4	16.7	16.2	15.8	22.5	23.1	▽ 25.9	27.0	▽ 13.6	14.9	▽ 14.4	16.7
当てはまらない	8.8	8.0	△ 11.8	10.2	6.8	6.6	5.4	5.3	△ 8.4	9.4	△ 10.9	9.7	6.7	7.1	6.9	6.5
「対話しながら進める」 ことに関する項目 (単位=%)	(9) 他の人と意見が clashed ときは、質問をして相 手の考えを確かめている。				(10) 分からないときは、他の人や先生に質問して解 決している。				(11) 自分が考えたことを、積極的に他の人や 先生に伝えようとしている。				(12) 他の人と相談して、 考えを深めるようにしている。			
	小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校	
	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都
当てはまる	△ 26.3	25.0	24.9	25.3	41.0	40.1	37.2	37.9	△ 27.9	25.3	15.7	16.1	△ 33.8	30.8	▽ 22.7	25.5
どちらかと言えば当てはまる	31.6	32.0	▽ 36.7	38.4	36.0	35.8	39.7	40.1	32.1	31.6	31.2	31.7	▽ 36.5	38.1	△ 42.6	42.7
どちらかと言えば当てはまらない	▽ 25.4	26.9	△ 25.7	24.6	▽ 14.6	16.3	15.9	15.5	▽ 27.2	28.9	34.9	35.5	▽ 20.9	21.9	△ 24.6	22.6
当てはまらない	16.7	16.0	△ 12.7	11.7	8.5	7.8	7.2	6.5	▽ 12.7	14.1	△ 18.2	16.6	8.8	9.3	10.1	9.2
「理解しながら進める」 ことに関する項目 (単位=%)	(13) 学習していて分からない言葉があれば、 すぐに調べるようにしている。				(14) どうしてそうなるのかという理由を 考えながら学習している。				(15) 答えだけではなく、考え方も確かめながら 学習している。				(16) 大切な言葉や公式などは、 意味を理解して覚えるようにしている。			
	小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校	
	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都	武蔵野市	東京都
当てはまる	△ 30.7	27.0	28.3	28.0	△ 41.1	37.7	31.8	31.7	△ 42.6	38.9	△ 36.4	33.5	△ 55.4	52.4	△ 51.0	48.7
どちらかと言えば当てはまる	35.6	35.7	40.2	40.4	38.8	39.5	45.9	45.3	37.6	38.3	44.4	44.5	▽ 32.8	34.3	▽ 38.1	39.2
どちらかと言えば当てはまらない	▽ 23.5	26.0	23.4	23.5	▽ 14.8	16.8	17.1	17.6	▽ 14.4	16.8	▽ 14.9	16.8	▽ 8.9	9.9	▽ 8.1	9.2
当てはまらない	▽ 10.2	11.3	8.1	8.1	5.3	6.1	5.2	5.4	5.4	5.9	4.4	5.2	3.0	3.4	2.8	2.9

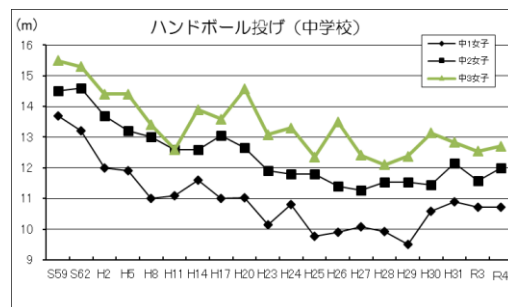
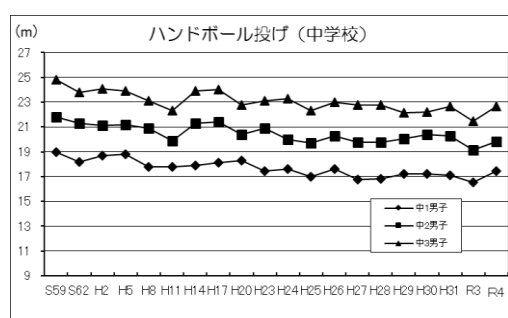
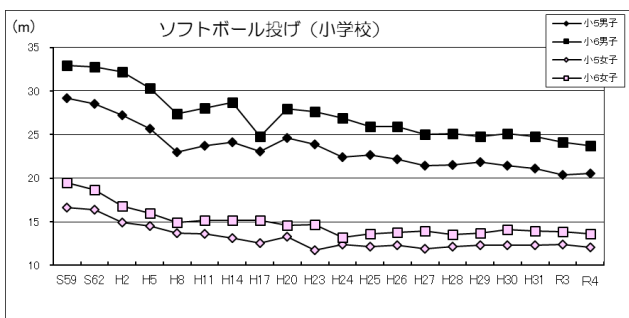
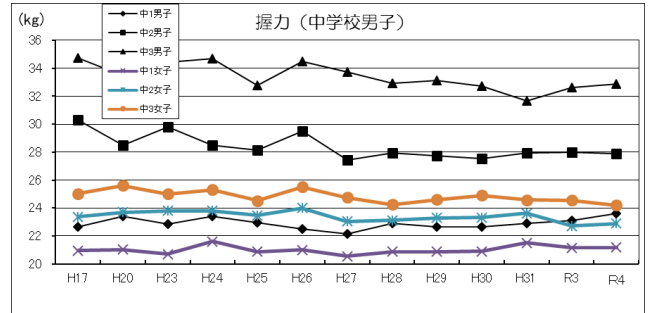
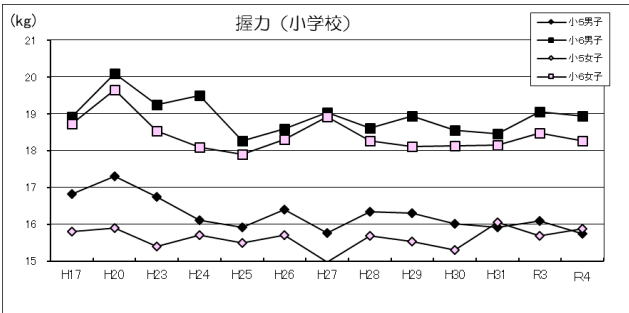
武蔵野市の児童生徒の実態（基礎データ②） 体の状況）

（東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果）

①体格について



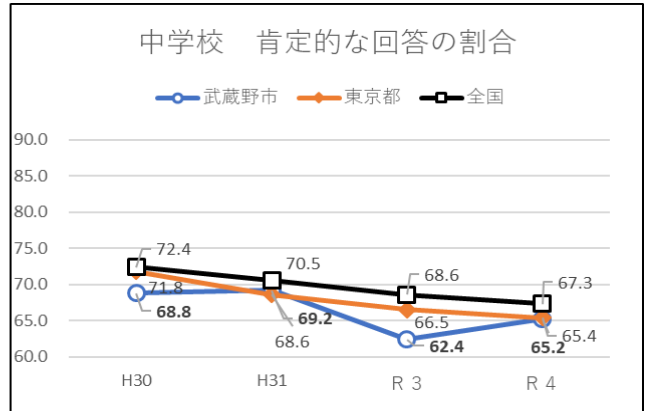
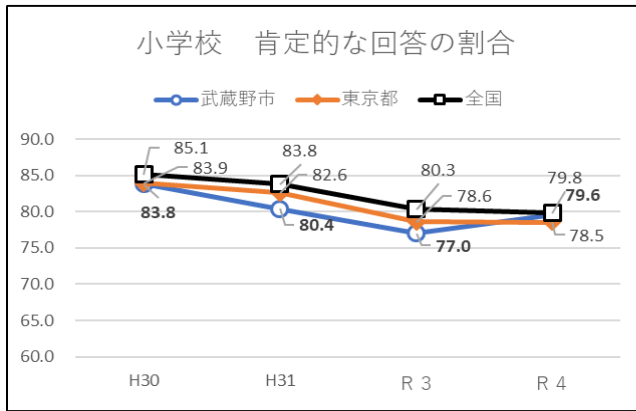
②体力・運動能力について（特に全国的に課題といわれる握力や投力について）



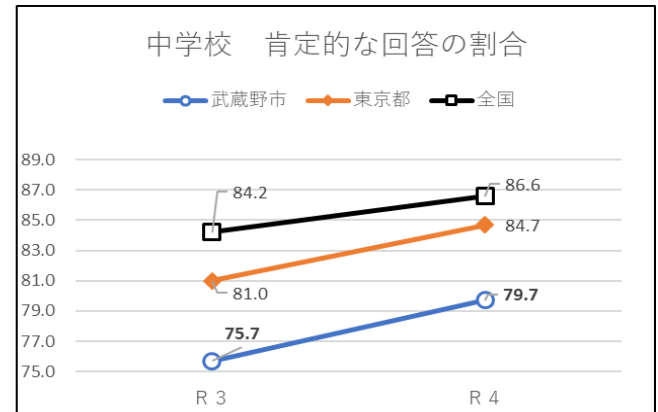
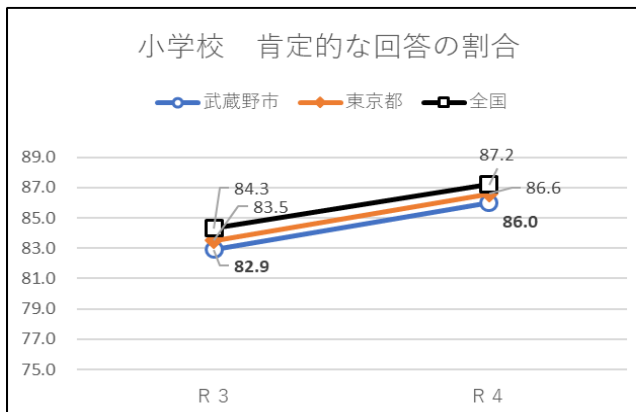
武蔵野市の児童・生徒の実態（基礎データ② 心の状況）

（全国学力学習状況調査 児童・生徒質問紙の結果の推移）

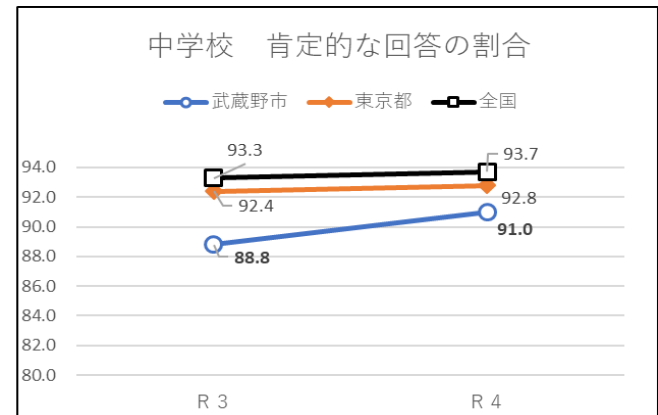
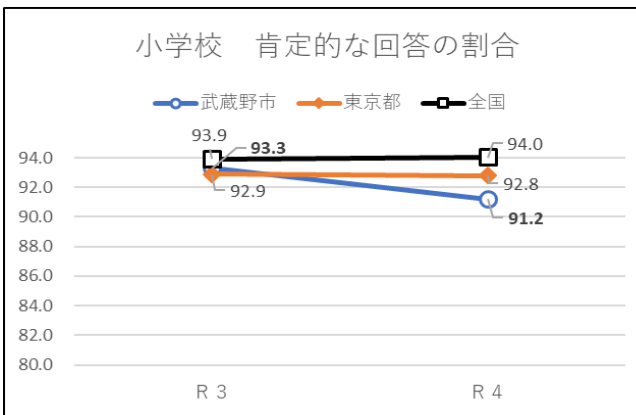
①将来の夢や目標を持っていますか



②自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか



③友達と協力するのは楽しいと思いますか



④先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか（令和3年度は設問なし）

